令和元年度第４回　南丹市地域創生会議　会議録

■日　時：令和２年２月 21 日（金）午前９時 30 分～12 時 00 分

■場　所：南丹市役所本庁１号庁舎３階防災会議室

■出席者

委　員：今井委員、窪田委員、坂本委員、高御堂委員、谷口委員、野々口委員、藤野委員、藤村委員、俣野委員、南本委員

事務局：市長公室　船越公室長

市長公室企画財政課　國府課長、片山企画係長、冨部企画係主査

■傍　聴：２名

1．開会（事務局）

■欠席委員の報告および会議成立確認（設置条例による）

座長（挨拶）：

美山で雪が 50 センチ程積もったり、大阪では梅と桜が一緒に咲いたりと、不思議な季節である。

そんな中、新型コロナウイルス等明るくない話題が多く、人が集まって大丈夫なのかという心配もあるが、本件については不要不急ではないという認識により、皆様のお力を借りて進めていきたい。

他市でも第2期の地域創生戦略を仕上げていっているが、一部では作れないので繰り延べするという所もあるように聞いている。しかし、南丹市の場合は皆様の様々なアイデアや事務局の頑張りで、指標まで設定されつつあるところ。一応今回が会議としては最終回になるので、見落としの無いように。

今更であるが、バランスよく、かつ戦略として具体性を持ったようなもの、達成出来ているか測れるようなものを目指していきたい。

南丹市には旧4町の地域があり、地域ごとに発展がないといけない。地方創生の戦略づくりに係わると「田舎の集落の持続可能性ということだろう」と言う人がいるが、そこまで狭くない。地域全体としてどんな未来図を目指すのかを考えるものである。旧4町それぞれの発展がありながら、南丹市全体としての総合性・調和も欲しい。産業も様々な業界ごとの発展・調和がいる。ワークライフバランス・働き方も大事。皆が傷つかないように調和しているだけでもダメ。具体性もいるし難しいことだが、熱心に議論いただいて大分出来てきていると思う。最後にもう一度チェックをいただいて、完成させたい。

では始めてまいりたい。

2．議事

議事①：第2期戦略最終案についての意見交換

＜資料①、資料②＞

（事務局から説明）

■資料①（南丹市地域創生戦略最終案）について説明

※中間案からの変更点（赤字・下線部）を中心に理由も含め説明

■資料②（パブリックコメント実施結果）についての説明・公開報告

委員：

事務局から説明があったとおり、リード文に対応するKPIがあって、それを実現するための事業・取り組みがある、それを見て分かりやすくしていきたいという主旨。今日もそういう視点で見ていただきたい。

これが策定できて実施に移った後には、このような委員会や、KPI・KGIの市民から分かりにくい部分についても情報提供いただきながらフィードバックして、停滞しているものが上手く加速したり、向いていないものは次の手を考えたり…のような流れになると思う。

さて、ここからは、基本的にはページ順内容を確認していこうと思う。進め方・全体に係るようなことで、今の時点で何がご意見は。

他の委員：

（特になし）

委員

では、前から順番に見ていき、特に赤字の部分がこれでいいかどうかご意見をいただきたい。

1．戦略の策定趣旨

委員：

ここの部分はよろしいか。最初、私たちはこういう総括をした。1ページ目にまとめているところは初めて出てきたのか。

事務局：

今回、変えさせていただいたもの。

委員：

基本目標3の「国の交付対象事業にはなりにくいが」という書きぶりは必要か。市独自で力を入れて取り組むという決意表明なのであってもいいのかとも思うが、行政的には別におかしいものではないということなのか。おかしいというか、目を引くというリアクションを各委員からいただいているが。

委員：

現実的には国の交付金を確保するための戦略が必要になってくるのは言わずもがなとはいえ、南丹市が自立した団体として自主的に地域作りに取り組むための計画なので、不要ではないか。

委員：

ここまでオープンに言わなくてよいかと。せめて「市の独自の取り組みとして」とか、もう少し上品な書きぶりにしてはどうか。交付金はあまりにも直球過ぎるし、いっそないか、言い換えをするか。

委員：
少子化や人口減少が増々進行していくであろうことは皆分かっている話。特にこの地域の場合、都市部とまでは言い過ぎかもしれないがこのあたり、それと日吉・美山といった地域差があり、それぞれ特徴的で、同じ尺度では解決できない、取り組み方も変わってくるという特殊性がある。南丹市として特にそのあたり、力を入れてやっていくのだという決意表明的な意味でいい気がする。

委員：
基本目標1について、それぐらい書いている方がよいかも知れない。それぞれについての総括ということで。
基本目標2でどんな人を呼びたいか、「PR」を抜いてターゲット層でもよい。施策の内容がPRしかないのかという見え方になってしまうので。どんな人に来て欲しいのか、ターゲットだけ明確にしたらよいと思う。

2. 戦略の期間
（特に議論なし）

3. 戦略の位置付け
（特に議論なし）

4. 戦略の構造
委員：
3ページの図は市が独自に作ったものか。

事務局：
そうである。

委員：
矢印が双方向でも良いのでは。見ようによっては基本目標があってそこから達成する手段を考えてというのもあるから、一方向矢印になっていることが引っかかる。逆に上から下の矢印を付けても引っかかるような気もする。

委員：
矢印はなくてもよいのでは。双方向でもややこしいし、ない方がすっきりすると思う。

委員：
１点だけ違和感があるのは、「事業・取り組み」の説明として「施策のKPIを達成するための手段」とあるが、これは違うと思う。あくまでも基本目標と達成するための手段であり、KPIはその進捗度を測る尺度に過ぎない。ここを間違えると全然違うことになる。

委員：

つまり、掲げた数字さえ出ればよい、という運営になってはいけない。有益なご指摘をいただいた。矢印をなくすということ、KPIを達成するということではなくて基本目標と施策を達成するということ。最後の修正で工夫いただきたい。

5. 戦略の評価・検証

（特に議論なし）

6. 市民ニーズの捕捉

委員：

突出した項目がない。皆さんが出してくれたアンケート結果に文句を言っても仕方ないが、「妊娠出産支援」や「婚活支援」が他で見るより数字が低い印象。

委員：

恐らくそこは、アンケート回答者の年齢層。若い方が積極的に回答をいただけていないということではないか。

委員：

なるほど。そういう意味でもっとこの戦略を知ってもらいたい。若い世代・転入層相手に知ってもらうような機会があればいいかも知れない。

アンケートで気になったのは、「住みやすい地域づくり」という回答が多いわけだが、どういうものを想定して選択肢を作ったのか。アンケート的にはどのように取り込めたのか。「住みやすい地域」というのは幅が広い概念。このあたりについて今後のために補足いただければ有難い。答えた方がこれを見て思ったとおり、ということなのだろうが。

委員：

理想が「住みやすい地域づくり」、本当にそう思う。美山町は本当に生活しにくい。毎日の交通、南丹市内での格差がかなりある。そのように思っている。どの挨拶を聞いても「住みやすい地域づくり」という言葉が出てくる。

委員：

「地域」という言葉に、コミュニティを含めて社会的なもの、人間関係、経済的なもの、交通、だいたい全部込められている。

事務局：

想定していた内容としては、住みやすい＝公共交通関係、医療関係、いわゆる近所付き合いを含めた地域的な住みやすさ、ということ。他の項目も色々あるが、そういう部分は入っていなかったので、総括して「住みやすい」という意味での設問であると思っている。

委員：

今後、南丹市で言うところの「地域創生」というのは何なのか、未来の南丹を創っていく大事なものだというのが伝わればと願う。

基本目標1　しごとをつくり、そこで働くひとを増やす

（1）南丹市の特色を活かしたしごとづくりと企業誘致

委員：

この部分についてはどうか。

委員：

認定農業者の数値目標はハードルが高いように思う。2018 年の時点の「100 経営体」は恐らく 100 人のことかと思うが、認定農業者の要件的に取得するのが難しいと思っている。「誘致企業就業者数」と並べるにはハードルが高すぎると思う。

委員：

現実的には働く形としては、認定農業者ではない、ということか。

委員：

そう思う。認定農業者＝プロフェッショナルな捉え方になるので、その道に精通しているような人をイメージする。それも大事かも知れないが、普通の就農者も増えないと。

委員：

認定農業者制度については、農水省によれば農業者が農業経営基盤強化促進基本構想に示された農業経営の目標に向けて、自らの創意工夫に基づき、経営の改善を進めようとする計画を市町村が認定し、これらの認定を受けた農業者に対して重点的に支援措置を講じようとするものです、とある。国も考えているような次世代農業者みたいなものを掲げるか、あるいは普通に農業をやって暮らしている人でもいいのかということ。

委員：

用語の説明がいる。認定農業者というのは市町村が定めるもので、京都府内でも南部と北部の方では基準が異なる。南丹市が決めた基準としか捉えようがない。用語も難しい気はする。

南丹市では農業振興計画を策定中で、そこの関わりで「今日までに意見を出せ」と依頼を受けている。その計画の数字と少し違う。それは経営体単位でなく人単位で、認定農業者に認定新就農者数というのも含めて数字が書いてある。同じ時期に出る計画であるのに、違うのはどうか。全てをすり合わせる必要はないと思うが、多少はすり合わせておかないと同じ内容で数字が違ってくる可能性がある。

ただ、南丹市の認定農業者は新規の人は必ず認定農業者になれるぐらい門戸が広い。育成しようという意味合いが強い。南部で土地がない所は認定農業者を増やすなというまちもあるぐらいで、何故認定農業者をつくるのかという文句が地域から出るくらいの現状だと思う。

委員：

貴重な問題提起・情報提起をいただいた。私としては、「認定農業者」という形が南丹で農業をされる方が目指したい・なりたいと思うものなら、指標に掲げてやっていけばいいと思う。そうでないなら、さっき言ったように、「とりあえずKGIの達成が大事なので、満たすために、皆とにかくこれになって下さい」とお願いして、「え、何で？」と農業している人から不評をいただく、ということになって困る。事務局

の方で今出たようなことを踏まえて、今補えることがあるなら教えていただきたい。

事務局：
　こちらから補足出来ることはない。いただいたご意見に納得している。

委員：
　結局は、その他林業等の産業は色々あるが、企業で働くのもあれば、農業で働くのもあるということで、2本柱で挙げているのは理解する。
　「認定農業者数」で南丹のあるべき農業の姿を的確に捉えられているのか、ということを最後にもう一度投げかけておく。戦略としてもう少し緩めた方がいいのでは、というご指摘があったことも踏まえて検討いただきたい。

委員：
　最終的に市の意向でよいと思うが、要は農業従事者数を増やしたいのか、あるいはよりレベルの高い農業者を増やしたいのか、どちらに重点を置くのか。どちらも有りだとは思う。
　最終回に言って申し訳ないが、今となっては林業はどうなのか気になる。施策の2つ目の「想定される主な事業・取り組み」の中で、「農業や林業の担い手育成・支援」というのが出てくる程度。やはり南丹市の中でも日吉町・美山町あたりは林業が重要な産業だと思うので、1つぐらい施策が欲しい。KGIとまでは言わないがKPIに何か、従事者数がいいのか、原木の出荷数がいいのか、そのあたり検討しては。

事務局：
　京都府の総合戦略の中間案を見ていたが、基本目標2の「農林水産業の成長産業化」というところにKPIで、新規就農・就業者数で農業、林業というのが入っていた。その中で京都府全体で分かるのであったら南丹市でも分かればKPIに加えられればと。
　しかし、市町村単位ではなかなか掴めない。例えば農業センサスだと5年置きの調査になるので、年々把握・評価するためのKPIとしてここに盛り込むのは間が空きすぎると思った。第2期の間で1回しか数字が動かないのでは、評価が難しいと思い外したところ。

委員：
　林業を業として振興するのかどうか。保全のためにもっと国が介入するので「仕事を作り、働く人を増やす」というのはならん、という判断があるのかと思った。そこまで言わない、というのなら、KPIにあっても良いと思うので検討いただきたい。

委員：
　今も言われたように、美山・日吉は林業。北桑田高校という、林業・森林に関する特殊な科がある学校もある。学校の勉強会では漁業のことも入っているが、南丹市で漁業には重みがなく、林業には重みがある。

委員：
　漁業も思ったが、内水面だけになるので。

委員：
　鮎がある。

委員：
　第１期には鮎を釣り、鮎を放流したり、釣りをやったり力を入れていた。

委員：
　おろそかにしてはいけないが、対象になる市民の方も極めて限定的になってくるので、あえて戦略で謳うほどではないかなと。新規参入もないので、漁業は言及しなくともよいと思う。

委員：
　林業をやっている人は、日吉に事業所があっても、他府県で仕事をしている。人数で測るというのは難しい。指標があるかどうか分からないが、森の再生事業・森林面積・間伐面積とかなら市単位で数字としてあがってくるのでは。素人なので確証はないが。

委員：
　おっしゃるとおり確かに、森林組合でも専従の作業班がおられる所とそうでない所がある。例えば、八木町森林組合だと作業班はもうない。しかし、事業やっていないのかというとそうではなく、委託等外注で八木町内の林業はやっている。おっしゃるとおり、従事者数では単純にいかない。どちらかというと、出荷額であったり、どれだけ手を入れているか、という指標を探せたらそっちの方がいいと思う。

委員：
　結論としては先程ご示唆いただいたとおり。施策から改めて見ても、「農業IOTの導入」とか、「地域産業を活かしたブランド作り」とかいうことで、そういう取り組みした額・認定農業者という指標にしてみたらという意味なのかなとは理解する。色々ご意見をいただいているので、再度ご検討願う。
　割と攻めた事を書いていただいて、「丹波産キヌヒカリ」「朝倉山椒」等、具体名まで上げて書いているので。そういうことで取り組んで行くとなると、広く農業者というよりは、認定農業者になるのかなと思って個人的には解釈していた。貴重なご指摘もあった。

（2）地域産業の担い手となるひとづくりと市内就職・起業支援

委員：
　ここの部分はどうか。リード文もしっかり書いていて、有害鳥獣・地域産業の衰退を防ぐとか分かりやすく書いている分、引っかかる人は引っかかるだろう。

委員：
　前からずっと出ていたが、KPIのところの「農家民宿開業者数」がやはり引っかかる。農家民宿がちゃんと産業になっていて、食べていけるという仕事なのかどうか。これがKPIになるのがよくわからない。下の「想定される主な事業・取り組み」の方でいいのではないか。先ほどおっしゃっていた林業の従事者数であったり、そういった数値がKPIに入ってくるのかなと。農家民宿は産業に結びつかない側面が大きいと思うので。

委員：

農家民宿についても現場に近いところにおられたら、知っておられる情報も伺いたいところ。色々、事務局に補足いただくことにして。

基本的には第1期のよいところは引き継いでいく、という戦略のスタンスの中で、農家民宿というのが色々な意味で大事なものだと。その中では単純に働く場・しごとづくりということではないだろうという解釈で、（1）ではなく（2）の方に入っていて、京都府の方でも力を入れて農家民宿というのを丹波の地域でもされてきたところであって。しかしそれが上手く成り立っているのか、という見解もある。ただ、第1期の方もそれに見合った、開業する人のための支援政策を色々してきた経緯があって、数値目標を掲げていたから、引き続きここで上げている。逆になくしたらどうでもよくなるのか、という印象もなくはない。しかし、15人から大きく伸びていく感じでもない。色々ある。事務局の方からもし補足があれば。

事務局：

民泊については特に補足はない。ただ、パブコメの中でもクラインガルテンや民泊に関するようなところでのご意見もあったので、一定取り組みの中に取り入れて、なおかつ入れるからにはKPIが何かしらと必要では、というところもあった。

委員：

1つ気になるのは、前は 12 人だったのが 15 人になって 20 人を目指すという時に、やっている人達に無理をさせ過ぎていないか、疲弊するようでは困る。無理なくやっていけているのなら、中山間地域では農家民宿みたいなものが指標に載せてはいけない、とまでは言わない。厳しいのではないかと委員から言っていただいたが、そのあたりをもう少し伺ってみたい。例えば本市以外の地域ではどうなっているのか教えてもらいたい。

委員：

恥ずかしながら、うちがこれをどの分野に入れていたか・・・。確かに今のご指摘を受けて考えてみたら、農家民宿、まさに農家がされる副業。そういう観点でいうと確かに産業・起業というよりも、「基本目標2　南丹市への新しい人の流れをつくる」の方。農家民宿はやっていくべきだと当然、思っている。この地域の魅力を活かすには。戦略でいうと「基本目標2」。「基本目標2　（2）ファン獲得に向けた南丹市の魅力創出」の「想定される主な事業」の「宿泊施設の誘致」。後で言おうと思っていたが、単純に宿泊施設の誘致よりも、「魅力を活かした多様な宿泊施設」等の方がよいかと思っていた。その1つとして農家民宿があるのではないか。

委員：

そう思う。この箇所にあると、外からやって来た人が農業を立ち上げて、ついでに民宿も立ち上げてみたいなイメージ。そうする人がいてもよいが、皆そうしないといけないとなってくると違うのでは。

委員：

おっしゃったとおり、転居してきて同時にということもあり得ないことはないが、ハードルが相当高いのであまり現実的でない。農家民宿といっていますが、京都府で農家民宿というときは広義に捉えている。一定のエリア、農村地域のエリアの中で農家があり、そこと連携してやっていく専業の民宿がある。そういった場合も農家民宿という定義。地域全体が皆さんに楽しんでいただくべきゾーンという捉え方。レストランであってもその範疇に入れることがある。農家の産直。そこで採れた食材を使った、農家が

入っているようなレストラン。こういったものを含めて農家民宿等。そういった概念もあります。そういう解釈なら新規従事・起業ということもあり得るかもしれないが。単純に捉えると従事者数が増えない。副業だから。そう考えると「基本目標2」の方に入れたらいいのかという気はする。

委員：
　今の話もご検討を事務局にお願いしたい。働く人が増えるかというのは置いておいて。例えば、お客さんが沢山来たら地域の人がお手伝いに入ったり、昔の感覚だったら、中学生・高校生がいてバイトして広がるとかだったらいいけれども。今はそんなことはないんじゃないかと。今のところはやっている人だけで回っているんじゃないか。従事者は増えないだろう、と。あえてこの箇所に載っているのは、そんな中で農業やっている人がさらに起業もして幅を広げる、という趣旨だったらこっちなのだけれど…ということ。それぞれいただいたご指摘はもっともなので、ご検討をお願いしたい。農家民宿の数値「20」を達成するために無理強いして、というのはよくない。

委員：
　そう思う。事務局の発言では「民泊」と。民泊と民宿は違う。それが戦略の中で整理しきれていないのでは。民泊と民宿の違いをもう一度調べて反映いただきたい。

委員：
　私も農業しているが、宿泊者を受け入れているので、民泊か。

委員：
　国の言葉の使い方自体が混同されている。農泊と言ったり、私から見ると農林水産省自身が一番そこを混乱させている。「民宿」というのは旅館業法で簡易宿所営業の許可を取得している宿泊施設。正確に言うと民泊という言葉はなく、「住宅宿泊事業」という。民泊というのは旅館業法の許可でなく住宅宿泊事業法、別の法律。許可をとっていない、ただお墨付きとしては住宅宿泊事業法ということで一定の基準を満たせば認められる。基本的には住宅に人を泊められる。民宿というのはあくまで宿泊施設。全く違うもの。そこが混同されている。

委員：
　こういう取り組みは、ほとんど教育関係のように思う。

委員：
　美山町では沢山受け入れている。

委員
　両方ある。美山町の流れとしては教育旅行で協力していただいた方が民宿に登録をする流れ。

委員：
　修学旅行生が沢山来て、そこで私のような普通の民家が受け入れたり。

委員：
　1つの学校が美山に来て分宿、その時に民宿もあれば民泊もある。同じように泊まっているが、皆

民泊と言っている。実は民宿に泊まっている場合もあるし、いわゆる民泊＝住宅に泊まっている場合もある。両方混ざっている。

委員：
　京都市左京区の久多という、岩倉からでも車で2時間以上かかるであろう山奥に、京都市で第1号の農家民宿の許可を得た「ほんまもん」という会社がある。そこは大流行り。何をやっているのかというと、引きこもり・登校拒否の子を大阪・名古屋、都会から取り入れて、元気にして返していくというような事業。ただ、冬は1メートルぐらい雪が積もって休業になるため、別の所に頑張って2軒目をやろうとされている。その事業の受け入れ先もかなり足りない模様。引きこもり・登校拒否の子が多くて、そこ1 軒では受け入れないくらい多いらしい。

委員：
　美山町には、1回あたり何人ぐらい来ているのか。

委員：
　国内旅行であれば 150 人ぐらい。私達は海外専門だが。

委員：
　「農家民宿」という定義もある。それは旅館業法の話になるが。農家の方が泊めて農業体験・農家生活体験をセットでやれば通常の民宿よりも基準が大きく下がる。民宿の例外措置のような形。なので、正確には3種類あることになる。

委員：
　最後の農家民宿、どこかで事例があったのでは。多分、農家民宿が出来た時に、森の京都等でも募集をして、それで手を挙げた方がいて、パンフレット等作って、「丹波の農家民宿」のようなものを作っていたような。ただ、行ってみようと思っても、旅費が1万円以上もするなら、海の京都に負ける気がする。行ってみたらこういう体験ツアーは楽しいのだが、見た目からして海があるのは強いなと。

委員：
　多分、狭義の農家民宿、本来のものかなと思う。一方で「基本目標2」のところに「農家民泊の推進」がある。委員がおっしゃった、戦略の中で混同されているのはそこかなと。

委員：
　その定義をきちんとした上で位置付けを書いて統合するとか。

委員：
　使い分けが何かあるのか。

委員：
　使い分けがあるのなら、巻末の用語集に農家民宿と農家民泊を足しておいてもよいかもしれない。それぞれ推奨しているし、やりたい方をやっていただいたらよい、みたいなことが分かるようになればよい。

委員：
　恥ずかしながら京都府も、よく使い方を間違えている。なかなか専門的で分かりづらい。私はたまたま住宅宿泊事業の条例を作った関係で正しく理解しているつもりなのだが。普通なかなかその事業は分からない。

事務局：
　イメージとしては両方とも推進すべきもの、という考えであったが、一方で委員から定義をご説明いただいたとおり、民泊の実態がなかなか掴めない。KPIに「農家民宿」とはっきり書かせていただいたのは、意図があった。「民泊」では掴めなくて、「民宿」でしか掴めない。結局、市の中でも把握できていなくて、どこに聞いたかというと京都府南丹広域振興局に問い合わせて、京都府の定義の中で「農家民宿数」というものを「15」という数で押さえていると。指標としてはそれを掲げている。結局、取り組みとしては、ご指摘いただいたとおり混同している部分もある。どう整理をするかは、今のご意見を踏まえて考えたい。

委員：
　よく考えていただいて。用語集で定義すればよいのかなと思った。しっかりとした指標をと、プレッシャーをかけて言っているつもりはないが、皆さんが言っているように数値さえ満たされたら、後はどうなってもいい訳ではないので、施策としても地域にも理解されながら推進していく。両面をお願いしたい。事務局ならできると思うが、無理せず頑張っていただきたい。

委員：
　「民泊」というのも、言葉の定義をまずしないといけないが、今は住宅宿泊事業法ができたから把握できるはず。把握出来ないものは違法。

委員：
　「ちょっと頼まれたから泊めた」みたいなものは違法なのか。

委員：
　今は普通の住宅に泊める民泊＝住宅宿泊事業は届出制になっているので。それがなければ違法なので論外。1 つ提案しておくと、ここの数値目標に挙げている「農家民宿」というのは狭義の農家民宿とはっきりしている。いわゆる「農家民泊」が先程も言ったように混同されている。住宅宿泊事業と旅館業法の一環がある。定義をしてしまうこと。「農業体験・生活体験付で教育、それをやっている所が農家民泊だ」という定義をする。現実に今、美山なら教育民泊に来られたときに泊められる所は住宅宿泊事業法の民泊も旅館業法の民宿も両方入り混じっている、それを分ける必要ないと思う。そういう定義をしてしまえばそれでいい。さすがに違法な所が泊めているとは思わないので。

委員：
　それはどうなのだろう。「今回だけ頼む」「あと3人」のようなこともあるのでは。

委員：
　曖昧なケースもあるとは思う。

委員：
　森の京都から依頼がある。美山も高齢化が進み、泊められる家が減っている。

委員：
　では、また気になる点が出れば基本目標1にも言及いただくことにして次へ。

基本目標2　南丹市への新しい人の流れをつくる

(1)定住・移住促進に向けた取り組みの推進

委員：
　「想定される主な事業・取り組み」の表記の問題だが、「移住希望者への情報・経済的支援」はもう少し丁寧に書いてもいいのでは。情報支援？情報的支援？表現が引っかかる。最後にもう一度検討いただきたい。中身はよいが。
　同レベルのことでいうと、パブコメを受けて載っているのだろうが、8ページのリード文の最後のところ。「2025 年大阪万博開催を視野に入れて」というのも、ちょっと窮屈過ぎる感じがする。もう少し変えてもよいのではと。読んでいて引っかかるところ。

委員：
　大阪・関西万博。

委員：
　正式名称が違ったという感じはしていた。パブコメでは確かにこう書いているが。

(2)ファン獲得に向けた南丹市の魅力創出・歴史文化振興

委員：
　「想定される主な事業・取り組み」の中に、「観光協会の運営補助」及び新規追加項目として「森の京都DMO・観光連盟との連携」という記載がある。私達は美山に観光協会がなくなってDMOとして動き始めているが、そことの連携については、どういうふうに入れてくれるのかというのを聞きたい。

事務局：
　要するにここに入っていないので、ということか。

委員：
　そうである。昨日も観光交流室と打ち合わせをしたが、明確な答えがない中で、今どういうふうに南丹市として美山DMOについて捉えられているかというところが知りたい。意図的に書いていないのか、どちらなのか。

事務局：
　意図的ではない。前回会議の中でご指摘いただいたそのままの形で入れさせていただいている。

委員：
　では1文入れていただければ嬉しい。

事務局：
　承知した。

委員：
　「ファースト天神」・「ラストキャッスル」がおもしろいなと思った。最近こういう打ち出し方なのか。

委員：
　これで売って行こうというのか。

委員：
　昨年あたりから市長がこういうキャッチフレーズで売っている。

委員：
　別に、それぞれの関係者が理解した上でこれで売っていこうというのは、全然構わないが。

委員：
　去年の正月には市長が旗を持って府庁にプロモーションに行っている。

委員：
　どういう意味か。「最初に天神に行って最後に城に行け」という意味か。

委員：
　いやいや、最初にできた天神と、最後に認められた城、という意味。

委員：
　明治になってから、最後に。

事務局：
　建てられたのが明治に入ってからなので。

委員：
　即廃城となるが。

委員：
　なるほど、分かりやすいし、海外の人でも「なんやそれ」となる。

委員：
　キャッチフレーズならいいけれど、戦略にそのまま書いたら意味が分からない。「日本最古の天満宮・最後に築城されたお城」でよいのでは。

委員：

最後の用語集で補うか。目を引く効果は確かにある。ただ、ここに書く以上は、5年間は頑張ってもらわないといけない。5年後に「これは恥ずかしかった」とかいう話になれば困る。5年間やるのであれば用語集に書いて、すがすがしくリード文にも書いてもよいと私は思う。全体的に攻めてきたな、という印象があってよい。目を通したときに何かと思ったが、今日来たら分かるはずだと思って、楽しみにしていた。

委員：
合わせて言い回しで、「対外的にアピールできる珍しい景観の発見とPR」とあるのに引っかかる。普段、珍しくないものを楽しんでいただいている、という感覚がある。海外から来た人等で、日本の田舎を見るのが初めてだけど、何だか懐かしい、そういうところを楽しんでもらっているなという感覚。あえて「珍しい」というのは何故かなと。

委員：
何か具体的に「ここ」という意図があるのでは。

委員：
何とかキャッスルみたいなのを作りたいのか。

委員：
おっしゃるとおり、この地域の田園風景とかは、我々にしたら当たり前であるし、日本中他に行ってもあるものだが、都会の人にとっては凄く魅力的。「景色が珍しい」とはそういうことなのかなと。

委員：
あえてつけるのは、何かあるのかなと思った。

委員：
珍しいという字自体が、いわゆる「珍百景」みたいな番組を想起させる。担当者の意向として珍しい景観をつくりたい、というのであれば別だが、そうでないなら「対外的にアピールできる景観」にしておいたらと思う。

委員：
「広報なんたん」でたまに載っている、珍しいスポットを掘り出していこう、みたいなことではないのか。南丹市に景観審議会という委員会があり、その中で月に 1 回程度、珍しいスポットを紹介されていたと思うのだが、それのことかと思って見ていた。そういうことではないのか。

事務局：
そういうイメージもあったが、市民提案型まちづくり活動支援交付金事業の学生提案枠で、大学生が南丹市の中を回って、気になった所を動画で撮って配信するような取り組みがあったので。そういう学生の感覚でいうと、「珍しい」というより「新鮮」という言葉の方が適当だったのかなとご意見も踏まえて感じている。珍しいとまでは、確かに言い過ぎかもしれないと、ご指摘をいただいて納得している。

委員：

例えば美山の北村みたいに唯一無二、よそにはない風景が「珍しい」でもよいかも知れない。他にはあるといえばあるけれど、ここにあるからこそ価値がある、のような。そういうものこそよいと思う。そしたら確かに、珍しいという言葉が適当なのかといえば少し違うかもしれない。今おっしゃったように「新鮮な」という方がよいかもしれない。

委員：
前も言ったかもしれないが、「HPのアクセス数」を入れるのはどうなのか。私が市のHPにいくのは、ゴミの出し方とか、そういうことだったりするので。例えば南丹というワードで検索したボリュームの数とか、かやぶきの里で検索したボリュームとか、そういったものの方が関係人口の指標としては適切では。

委員：
おっしゃるとおり。南丹市のHPをたまに見るが、観光情報はほぼない。市政に興味を持っていただく、という意味でなら、市民に沢山アクセスしていただくというのは凄く大事なのでよいとは思う。目標設定として悪くはないが、確かにおっしゃったようにこの箇所ではない。

委員：
例えば南丹市のHPを見て、南丹市の行事一覧みたいなのが最初に大きく出ているのなら、ここでもよい。

委員：
市バスの時刻表見たいので市役所のHPを見る。学生に教えるのに、毎回忘れて必死になって市役所のHPを隅々まで探して循環バスの時間を見ている。ちょっと「南丹ファンの獲得」というのが「市のHPのアクセス数」で測れるのか、他に数字が把握できて適切な指標もあるのではないかというご意見もあったということでご検討願う。

委員：
「観光ページの利用数」ならよいけれど、「全体アクセス数」はここではない。

委員：
南丹市には観光ページがない。生身天満宮は、ここの近所で梅が有名なところだったと思う。

委員：
確か何かに掲載されていた。

委員：
頑張ってやっている。

委員：
市のHP、ファン獲得に向けて頑張っているなら指標にしてもよいが、そうでないなら違うのでないかと。10 年ぐらい前には、観光のパンフレット「桜咲いてます」みたいなものをExcelで作って市のHPにアップすることはやっていたと思う。

基本目標3　結婚・妊娠・出産・子育ての希望を叶える

（1）結婚・妊娠・出産・子育てを後押しする環境づくり

委員：

漢字が多いのは悪くはないのだが、「叶える」とか「箇所」とか、他の計画等と合わせた表記だろうが、割と固めだなという印象。ただの感想。

「婚活事業参加者数」ですけれども、「延べ」と「述べ」が誤字あり。数字を入れる時に直すと思うが、一応申し上げておく。

皆様からもお気付きの点があれば言っていただけたらと思う。

委員：

感想だが、数値目標のKGIとKPIの関係が綺麗である。まさにKGIがアウトカム、KPIがアウトプット。KPIも含めて基本アウトカムの方がよいのは確かなのだが。そこはなかなかアウトカムを求めづらい、市は一生懸命やっているのだけれども…というのが絶対ある分野なので。そういう意味ではKPIがアウトプットでいいのかなと思う。それに対して本来の目的というか、少子高齢化を何とかしようという意味でいったら、KGIはアウトカム指標にし難いものだが、案では施策のKPIを達成するような取り組みをやっていけば、KGIの数値上がってくるはず。そういう意味では凄くきれいになっているなと感じた。

委員：

11 ページに列挙されている「想定される主な事業・取り組み」の「婚活事業」は、書き加えたせいで文章が変になっていないか。婚活事業そのものと婚活事業に行く人のスキルアップ、ということでおかしくないのか。以前、京都府に来てもらって授業でやってもらった時に、服装から、髪型から、話の持っていき方から…という内容、スキルなのか、魅力や婚活力等という抽象的な表現の方が適切かもしれないが。

事務局：

確かNPO法人テダスで、男前道場をやっていると思う。婚活の成功率を上げるセミナー。

委員：

「子育て広場」の指標については、「開設場所」というより、「利用したい人の人数」とかの方がいいのかなという気がする。子育て広場に車に乗って来る子ども達もいるので、近隣の方が便利という考え方もあるだろうから、箇所を増やすということなのかと思うが。子どもが全体的に減っているので、そこに行ったら他地域の子にも会える、という面もあるようなことを聞く。数を増やすのがよいことなのかどうか。

委員：

なるほど、それも検討いただけたらと思う。

（2）子ども達が地域に愛着を持てる教育や取り組みの推進

委員：

市民意識調査の「企業誘致」という回答率が結構高く、当然、地域創生でも企業誘致数を増やすという目標があって、この 11 ページの指標にも、「誘致企業新規採用市民数」を採用している。

我々が取引している企業で 1 番悩まれるのが「地元雇用ができない」ということ。京都市内から進

出してきても、地元雇用しようと思ってもできなかったから、結局は京都市内から従業員を引っ張ってくる。だから駅が近くでないと来てくれないと非常に悩んでいる。吉富の所は行政が止まってしまっている感じだが、そういう開発地域というのは真剣に考えておかないと、目標だけ挙げてそこそこの企業に来てもらおうと思っても、絶対見つからないと思う。ジャトコやメグミルクの規模の企業を引っ張ってこないと、地元採用は大きく増えない。中途半端な中小企業引っ張ってきても、新卒の学生は見向きもしないと思う。そこは、きちんと亀岡の大井みたいな開発地を業者の方で、「ここ！」という場所を作っておかないと難しい。実際、企業と取引していると、就職希望者が誰もいないという生の声はよく聞く。京都市内の支店長からも、市内の土地価格が上がり過ぎていると。「八木で 1000 坪ないか」とか「園部でないか」とか聞かれるが、土地がない。だからそこでも逃がしている、ということなのかなと思う。

委員：
　よい情報をいただいた。「男性の育休取得を勧める啓発」というのが、育休の啓発でいいのでは。「勧めるだけ」でもよいのかと言いそうな人が出てくるかも知れないが。文言を読んでいると、そんな感じの思いが。

委員：
　おそらく施策（1）と施策（2）両方にまたがってくると思うが。おっしゃったとおり、そこで市に何ができるのか。市だけでなく府も一緒だが。例えば府なら、子育てしやすい働き方をしていただくという意味で、時間単位での有給休暇、社会保険労務士を入れて就業規則を見直して、そういうことをやらせてもらっている。結局、子育てしやすい事業所というのは、皆が働きやすい。それが企業の魅力に繋がって、例えば子育て応援企業として認証を取っていただく。すると行政もそれをPRするので、BtoB業種で一般求職者の目に触れにくい、知られていない企業についても露出が増え、働きやすいということで人材確保にも繋がっている。そういった企業をこの地域で増やすことによって、地元の人が就職するようになる。そういう好循環を目指していくようなことは必要ではないのかなと。そこの意味での「男性の育児取得を勧める啓発」だと理解している。書き方は考えるとしても。
　男性だけでなく全体を通してみたら当然これで解釈できる。子育ての支援を色々書いてもらっているので。施策（1）と施策（2）をどう分けるのかは迷うが、やはり（1）か。その辺は施策推進を意識していただきたい。（1）と（2）は密接不可分である。

委員：
　認定企業のようなものは数字が把握できるのか。

委員：
　把握可能である。

委員：
　数字が取れるのなら目標に入れてもよいのでは。

委員：
　そこには課題がある。これは南丹市だけではないが、域内に本社がなければ。ほとんどの企業が出先の事業所なので、本社がその気にならなければ変わらない。なかなか地域だけでは完結しない。

地域に本社がある所は結構やっていただいている。我々も働きかけているので。課題は京都市内に本社があって、南丹市内に事業所だけがあるような場合。事業所だけで何かやろうとしても決定権は本社が持っている。

企業誘致の関係で先程、支店長がおっしゃったとおり、企業誘致する際には「そこに人（就職希望者）はいますか」というのは絶対に問われる。

もう1つ課題は、事業所に採用権がないこと。本社採用、採用事務は本社。

それと、この辺で企業誘致したところで、工場であれば、機械化が進んで実働人数が少ないという面がある。

さらにもう1つ、採用枠が工場労働者であるにもかかわらず、この辺は都市近郊ということもあり、日本中がそうであるように高学歴化している。大学まで行って「現場で機械の守りをするのか」みたいな。

以上の課題から、結局地元雇用に繋がらない。もっと北部の方で工業団地とかある所でも、大手企業の工場があるが、地元雇用はほぼ高卒の方。大卒の方というのは本社採用で他所から派遣されてくる。そこのどうしようもない課題というのはある。一方で高校卒業して就職する子がゼロかといえば、そんなことはない。ひょっとしたら帰ってこられるかもしれない。各工場でも管理部門というのは本社採用の方が来るので、可能性がある。そういった工場を誘致してきて、そこを知ってもらう。これは絶対、大事だと思う。

話が飛ぶかもしれないが、追加されたKPI「学生の職業体験に関わる市内企業数」。先ほど、説明の時にかなりサラッと言っていると思った。例えば、直接的に就業体験をして、その人がそこに就職した、そこまでいかなくていいと思う。それは無理。我々は京都府庁インターシップをやっている。よくあるのが、一生懸命来て欲しいと世話をしていたら「京都市に就職しました」ということが頻繁にある。でもよい。業界の存在を知ってもらうということ。たまたまそっちを選んだけれども、「行ったところもよかったよ」と言ってもらう。南丹市の子が、南丹市の工場で体験をして、結果的に他所に行くかもしれないが、ターゲットとしては新卒だけでなくていいと思う。当然、Iターンでもいいし、愛着を持ってもらうという意味ではUターンでいいと思う。他所で働いてきたけれども地元へ帰ろうと。よい企業があると。そういう風に思ってもらえるようにさえすればよい。直接的に就職まで意識してしまうと、ほぼ空振りになる。

委員：

南丹市になって長期インターンシップを受け入れて、業界に就職というパターンも。

南丹市役所の中にはそれをやって今職員として勤めている者もいる。

委員：

打率は低いがゼロではない。

委員：

確かに。

委員：

そういう意味で把握もどれだけやるかというのはあるが。ネット検索レベルでよい。インターシップをやっている企業は、募集をするために絶対インターネットに載せているので。その程度でかまわないと思う。実際にインターシップをやっている企業数だけでよいのではないか。

委員：

もう1つ、交通も改善されている中で、南丹に住んで大阪・京都に働きに行く、という選択肢も増えてくるだろう。それでよいと。ちゃんと地域に関わってくれたらよいと思う。例えば、家族全員が大阪勤めしていたら、わざわざ南丹には住まない。家族がいるとして、誰かが大阪・京都に働きに行って、誰かは地元で暮らして…みたいなことで選んでもらってもいいんじゃないかとは思っている。個人の感想だが。

一応次に繋げて話そうと思って、「(2)子ども達が地域に愛着を持てる教育や取り組みの推進」の方で書き加えなくてもよいが、今後も安心して南丹に人の流れができて住んでもらって、子育ての希望を叶える、というと。子どもに色んな選択肢を持ってもらう学校・学力ぐらいが付くようにしておいて、地元で回るもよし、世界に旅立つのもよし、みたいな安心感があったら、もっと来てくれると思う。ここに数値目標が書いてなくても、教育振興基本計画もあるだろうし、その他にも色々。別にそういう計画があると、なかなか「確かな学力・行動力」「グローバルに通用する学力」等と書きにくいというのは仕方ない。他の地域で教育振興基本計画を作ったり評価したりしていると思うところ。子育ての希望の中にそれもあるなと思う。

特に変更を求める発言でないものを言うと、舞鶴・久御山とかでは子育て支援ということについて、それを支援するような子育てサークルを世代交代して作って行こう、とか、新しく入ってきた方で活動意欲を持っている方に、子育てサークルよりも、できたらソーシャルビジネスを立ち上げさせたい、というような難しそうな試みを書いていたが、それに巻き込まれたら辛いなぁとは思うが、ここで次の活躍の場ということとも絡められるのかなと思う。舞鶴で政策づくり塾というのをやっているが、自衛隊・海上保安庁とかあり人の出入りが激しい中で、そこの配偶者。そのビジネススキルみたいなものを活かしたいみたいなので、初産のお母さんの不安みたいなのを解消するような取り組みとしてヨガ教室みたいなことを提案してやっていた。ターゲットになっている部分。南丹市でも何かでてきたら面白いなと期待している。では次へ。

基本目標4　誰もが安心して暮らし、活躍できる地域をつくる

委員：

安心と活躍が両方入っている。個人の率直な感想でいうと、安心の方にかなり力が入って、活躍の影が薄い。ただ、気候変動、特に豪雨災害等が問題になっている中、避難所の利用が増え、あまりにも日本の避難所は数十年時が止まっている、レベルアップが必要と言われている状況では安心の方に力が入るというのは分かる。これはこれでよいと思う。

１人の委員としては、次世代・若い世代とか、外部から人の流れで南丹に来てもらった人も活躍できるような取り組みというものが、もう少し欲しいと思う。勿論、活躍できる地域というのは、例えば久御山であれば、「全住民・全世代、総活躍」等分かりやすいものを掲げていて。女性の活躍、高齢者もいつまでも活躍して欲しい、というニュアンスがあるのは分かっている。どんどん移り住んで来てください、どんどん関わってください、といっても、活躍の場を与えなければ来た人のやる気は削がれてしまう。来てもらって、活躍してもらったら、また何かやりたい、と少なくともいい思い出は残るので。そこはポイントだと思う。

事務局：

今の活躍の話だが、京都府や他の団体でもあるが、実は横断的な目標というところで、多様な人材の活躍を推進する等施策にとらわれずに、例えば観光の部分とか、子育ての部分とか、こういう部分で横断的に目標を設定されているところもある。南丹市の今の考え方としては、それぞれの基本目標の中で活躍出来るというところにも触れているので、横断的な目標設定にはならない。そういう部分

でいうと当該基本目標の中では「活躍」の部分が少なめになっているように思っている。

委員：
　承知した。その上で、一般的に国が広域的に進めているのが、少子高齢化というリード文から始まっているように、高齢者にいつまでも頑張って欲しい、定年も 65 歳に引き上げていく、という中で、方針としては、先程も言ったように、子どもが移住してきた方に活躍してもらって地域に定着するきっかけとしても、「活躍」というキーワードに目を向けて欲しいとしつこく言っていた。やり方については自分でも考えていくが。

委員：
　私の感想としては、ここでいうところの、「誰もが安心して」というとこまでで、暮らしも活躍もある意味インフラ。先程、事務局に説明いただいたように、活躍に関しては確かにそうなのです。他の基本目標に既にいっぱい入っていて、それのベースになる、活躍しようと思ったら土俵がしっかりしていないといけない、その土俵分が「基本目標4」の中心なのかなと思った。そういう意味で若干、委員がご指摘されたとおり、「活躍」要素が少ないといえば少ないが、他の基本目標にも掛かっているので仕方がないのかなと。「活躍」はすごく幅広いので、そこがもっとクローズアップされてしかるべき。書き方の工夫はいるのかもしれない。
　全体でいうと、私が唯一気になったのは、「（3）次代に繋ぐ連携の地域づくり」。南丹市としては言われると嫌なところかも知れないが、「想定される主な事業・取り組み」はそれなりにあるような気はするものの、KPIだけを見ると「京都府との事業連携」・「近隣自治体との事業連携」が出て来るが、「市内、南丹市内の旧町どうしの連携」がない。私から見ると、まだまだできていないように思う。それぞれ4つの旧町に特徴・魅力があって、役割分担もあるかと思う。旧4町を全部同じに、画一的にする必要は全然ない。それぞれ地域ごとの強みをもって南丹市全体を引っ張る、逆に弱みを他の地域が補う。「南丹市内での連携」という視点が弱いかなと。KPIにいるかどうかは別。KPIは設定できないと思う。統計上も旧町ベースにする必要もないと私は思っているので。しかし、市が施策を進めるためには当然特徴を押さえておかないといけない。あえてここで指標設定する必要はないが、考えたらそういう取り組みは必要だと。

委員：
　八木町の「島津製作所の森」の間伐材でできているSDGsバッヂ、そこをもう少しはっきりPRするシーンもあってもいいのかなと。メタル製のバッヂも多いのだが、八木に行くかぎり、島津のバッヂをずっと付けるように心掛けている。それもアピールしてもよいのかと思う。
　丹波産キヌヒカリ、これも聞くところによると、キヌヒカリといって食べにきているお客さんは全然いない。インターネットで調べても、「南丹市　キヌヒカリ」で検索してもどこも引っ掛からない。「大嘗祭に選ばれた南丹市のお米です」と言ったら、一杯炊き込みご飯を買って帰ってくれるらしい。それぐらい大嘗祭を謳わないと、「丹波産キヌヒカリ」といっても通じないと思うので工夫されたらよいと思う。

委員：
　今のご意見を聞いていて、話が繋がった。学生に書かせたレポートでも、何人も「大嘗祭のそれを使え」と確かに書いていた。50 数人に向けて、南丹市にシティプロモーションとかシビックプライドの形成と高校生に関ってもらうための仕掛けづくりの先進事例を考えて出せと授業で出したところ、調べて「高校生レストランをやれ」と言うのが 10 名ほど、そこにキヌヒカリと書いていた。

委員
「大嘗祭の米」といっても、長くても2年もたないと思うので、今年が勝負。

委員：
それがきっかけで「美味いな、また食べたいな」と思われることはあるだろう。

委員：
美山の鮎も大嘗祭の献物に出された。

委員：
美山と桂川の。

委員：
あまり触れなくてよいかもしれないが、「（3）次代に繋ぐ連携の地域づくり」に施設関係の事が入った挙句にKPIが一切出てこない。これは置き場に困ったのか。勿論、小学校の跡地等を地域の拠点にして支えていって、というのがあるのは分かる。考え方はどうか。

事務局：
実は、そこはご指摘いただくかも知れないと思ったところ。市として公共施設再編計画を作っているのだが、まだそこまで先の見通しができていない。具体的に、先程農業関係との計画とも整合性をとるべきとご指摘いただいたと思うが、これについても整合性をとるべきと考えたら、もう少し具体的に数値が拾えるような状態になってからでないと、ここには書きづらいという事情があり、あえて今回は挙げていない。

委員：
南丹市内での地域間連携には、この辺の施策が関係してくると思う。それの具体化をどうするのか。むしろそれが前にあるのかもしれないという気もして。施策（3）のところに「自主振興組織の設立支援」とあり、地域医療とか、こういった地域の活躍の場として既存施設の関係が色々出てくる、絡んでくるのかなと。その時にどう地域間連携を絡めていくのか、施策（2）施策（3）が密接に関係してくるので、そことどう関係して、そっちに関連するKPIもある、と。そういう形にできないのかなと思ったり。ご意見のとおり、施策（3）だけでいうと「主な事業・取り組み」とKPIがあまりリンクしていないものがある。どうしたらいいのか。

委員：
「既にあるもの」の有効活用等は、（2）に入るかもしれない。

委員：
橋等の補修まで最後に入っているが、（1）なのでは、と思ったり。そうやって施設とか庁舎とか目立たないのに、後ろにがばっと集めてどういうことなのかと問うてみた。
前の方に戻って施策（2）に「地域リーダー」というものが出てくるが、これはどういうものか、共有されているのか、少し気になる。これからの重い役割を担って外部から入って来た人、外国人も含めて引

っ張っていってもらいたいから養成する。地域リーダーとは何なのか。普通に通じるなら別に構わないと思うが。

事務局：
　これは本市事業の中で、育成事業やっていたその数値を実際にアウトプットで拾ったもの。詳細は説明できない。

委員：
　いや、別にそこを特段、問題だと思っているわけではない。リード文のところでも、地域の非常に根幹的な問題として、後継者不足、外国も含めた他地域からどんどん入ってくる人を、地域リーダーに頑張って南丹に馴染ませて欲しい、とまで言っている訳なので、結構大事な役割なのは理解する。
　元地域おこし協力隊の方は研修等受けて地域リーダー扱いになっているのか。

委員：
　入っているのか、そうでないのか分からない。

委員：
　協力隊を経験してこの場に居て委員をやってくれているような人は、ここでいうところの地域リーダーかなと思った。

委員：
　もう1つ気になるのが、避難所というものへの関心が凄く高いと思うので、12 ページの一番下、「子育て家庭や高齢者にも優しい避難所」というのは限定しすぎかなと。今後5年間のことを思うと。元気な人にとってもより快適な避難所等、子育てしていなくても女性にとっては怖くて行けない、と言われている問題もあるので。ペットは家族だからペットと共に行かせろという声も当然出てくる。ペットも連れて避難したい。人の流れをつくって外国人を連れて来たら、外国人も避難させないといけない。沖縄や鹿児島の南西諸島等に遊びに行ったら、台風が来た時に一応旅行者も避難所に来る想定はあるようである。外国人も来てもらう避難所、と考えると、「子育て家庭や高齢者にも」という表現は少し絞り過ぎなので。避難所、次世代の避難所というのはよいと思うが、もう少し幅広にしてはどうか。

委員：
　重要なキーワード「外国人」。まさにおっしゃたように外国人の関係で、「想定される主な事業・取り組み」のところで「外国人向け案内表示の普及や通訳ツールの活用」「外国人との交流事業」とある。今後、外国籍住民の方が増えていく中で、当然想定される。特にこの地域、農研設備や福祉関係施設が多いので、その分野でかなり入って来られると思うし、工場に入って来られたりという想定がある中で、書きぶりがあっさりしている。外国人が来られる場合、観光関連で来られる、新しい流れを作るという部分はある意味当たり前だとは思うけれども。一方で暮らし、あるいは活躍、定住者前提で考えたら、何かもうちょっと物足りない。今後5年を考えると、すでにNPO等でやっているのではないかと思うが、例えば日本語教室であったり、色んなルール、生活習慣・日本の習慣を知っていただけるような場が必要では。「交流」に広い意味では入るのかも知れないが。

委員：

そう思う。外国人の流れが増している中で、この5年間で下手したら既存住民と溝ができる、何か外国人が嫌、という空気ができたら困るので、大事なことだと思う。出来ることも色々あるだろうし、お互い友好的な関係ができたら、外国人の場でも行ってまとめ役したり、繋いだり、PRしたり、してくれる人が出てくるだろうと思う。これからの地域つくる上で大事なところ。宇治田原町では、お祭りに来てもらって、ベトナム人が多いからフォーの屋台等出したりしていて。私以外の研究室の調査で久御山町とか外国人が孤立化していると。日本語教室やっていても。学生の調査では「彼らは日本語の学習の興味しかない、横に繋がろうとしない」とあったが、もうちょっと調べた方がよいような気はした。とりあえずそういう研究報告を学内発表では聞いた。その後は、例えば外国人の中で、ちょっとスターみたいな人が出てきて、CATVも出てポジティブな広がりが出ることは考えられる。

委員：
国際交流協会が結構活発に動いている。定住されている方にそういう取り組みをやっておられる。

委員：
国際交流会館でやっている。

委員：
週2～3回程度夜に。

委員：
既にやっていただいているのなら、新たに交付金を取る必要はないかもしれないが、施策体系としては書いておいた方がいいのでは。折角やっているのなら。

委員：
「こういうこともやりたい」と思っている事もあると思うので、そういう思いも拾えたら。

委員：
今の考え方が、それこそ修学旅行生を農家に招いてあわよくば継続的に来てもらいたいという目的でやっているのだったら、同様に外国人で短期で来て帰っていく人が、成功して再び来てくれるとか、良い思い出を持って、もう1度今度は家族を連れて来てくれる、という展開になれば関係人口も増えて、大儲けでいい話だと思うので。やはり溝を作らずに、良い思い出を持って帰っていただくという着想は大事であるし、何かそれに繋がる取り組みは書きたいところ。できれば、成功の礎を築いたという思い出を持って、定期的に遊びに来てくれるような流れに期待したい。

委員：
美山も多い。中国、台湾から。

委員：
ベトナム等も増えるはず。どこでも増えているので、そうなってくれたら嬉しい。

委員：
13 ページの「地域活性化支援事業実施数」は、21⇒21 ということで、先程説明もあったとおり、今

後間違いと誤解があるかもしれないので、目標維持だということを書いた方がよいのかなと思った。その辺、よろしくお願いしたい。
　また、自分の仕事の関係で言うと、先程から「光ファイバー網の活用」と関連して「IOT」等書かれているが、市としてローカル5G等目指しているのか、その辺を聞かせてほしい。

委員：
　おっしゃるとおり、今後5年間を見据えて5Gを取り込んでいるのかと思って見ると、見当たらない。

委員：
　その辺がここの記載の意味なのかという確認に聞いた。今後「ローカル5Gの構築」とか企業誘致と農業の関係も出てくると思うが、そういう活用をやっていくのだという解釈をしていいのか、そのあたりが曖昧。

委員：
　いかがだろうか。次に答申の議題もあるので、最終案でもし何か言い残されたことがあるのならお願いできたらと思うが。

各委員：
（特になし）

議事②：答申書（案）について
＜資料③＞

（事務局から説明）
■資料③（答申書案）について、付した意見（案）を中心に説明

委員：
　第1期を作る時にもお手伝いをさせていただいたが、内容を妥協し、評価会をする度にいつまでも指摘をしていたことについて、今回「意見1」でご対応いただいたと思う。KGIとKPIを区別しながら、やっていただいた。今後も、よりよい指標・目標を考えながら改定していくというのは、求められる当たり前のことではあるが、実際にやるとなるとなかなか大変なこと。本気で頑張ってやっていただいているのだなと喜んでいるところである。各委員には、私の解説の後で意見があればお話しいただけたらと思う。
　「意見2」の方の提案については、まさに各委員から様々なアイデアを出していただいているものを今後もご検討いただきたい、ということで、しっかり言わせていただこうと思う。これを市長へご持参した際に「具体的には何か」と問われてもお答えできるよう、議事録等を見直して皆様から留意すべしと言っていただいたのをしっかり紹介したい。
　もし何かご意見があれば。

委員：
　全体としてはよいと思う。若干、最初のリード文のなお書きの日本語が気になる。「南丹市が直面する大きな課題に立ち向かい、歯止めをかけるために」とあるが、何に歯止めをかけるのか。多分、人

口減少なのか少子高齢化なのか。歯止めをかけるというのは何か悪化をしているもとを止める。それが書かれていないように思う。

委員：
　確かに。例えば「なお、南丹市が直面する人口減少という大きな課題に立ち向かい、歯止めをかける」ぐらいにしたら意味が通るか。

委員：
　「課題」というのも色々ある。それが歯止めをかけるべきものなのか、無くしてしまうのか分からないので。委員におっしゃっていただいたような形であればよいニュアンスでは。
　「意見１」の所だが、先程最終案の中で言わせていただいたように、KGI・KPIはあくまで達成状況を計るもの。目的を果たすために、というのは少し違うかなと。当然、それを測るために正確な数値等の把握、より精度の高い指標への見直しは必要なので、そこは全然、間違えていない。ここも記載が抜けているのかと。施策をやり、それを測るためにKGI・KPIがありますと。そういう流れの方が。

委員：
　ご意見ありがたい。しっかり考えて読まなければならない。

委員：
　話が戻るかもしれないが、戦略は基本的には市長に渡すものだと思うが、一般の方も見るものになると思うので、用語集をもう少し充実してもいいのかなと思う。ここにいるメンバーは内容を理解している方だと思うので、このぐらいでも足りると思うが。全然知らない人に聞ける機会があるのか分からないが、もっと詳しくてもよいのでは。

委員：
　前も言っているように、これをもっと共有する機会を大学なども絡んでやりたいとは思っている。そもそも、もう少し用語を充実するのはありだと思う。

委員：
　よいと思う。

委員：
　事務局はずっと取り組んでいるので「こんなん、全部当たり前やろ」と思ってしまうだろうから、外部の視点でこれは用語集に入れたらどうかと、この場か忘れない間に言ってあげたらよいかなと思っていた。行政の事も一定お分かりで、市民感覚もおありなので、是非言ってあげたらよいと思う。
　私は「ファースト天神」「ラストキャッスル」を残してよいとは思うが。

委員：
　リード文で「日本最初の天満宮（ファースト天神）」という分かりやすい表現に崩す方がよいかもしれないし、用語集に入れてもいいかもしれない。それでいったら「朝倉山椒」も市民の方分からないかも。

委員：

山椒の種類か。

委員：
NHKのBS放送で見た記憶がある。

事務局：
この地域の山椒ではない。「丹波栗」のようなもの。

委員：
どちらかというとブランド名にしていこうという感じ。

委員：
今言っていただいたように、用語をもう少し充実したら、より理解もされて受け入れやすくなるだろうということ。用語集の定義も比較的端的というか、すっと読んで分かりやすいように工夫して書いていただいているように思う。何か言い訳のように、正確さを期してとにかく書いた、という読むのも辛くなるような用語集もある。読みやすい感じにしてもらっていてよいと思う。

私自身は「意見2」に関して、市長にお渡しする時に、今言ったように、この計画をより多くの人に知ってもらって、これに関わって動きたいと思ってくれる人に伝えたい、と言いたい。もう疲れたという人に、この目標達成のためにもう１つご協力を…と言ってお願いして回るようなことのはしたくないと思う。ある意味、潜在能力を持っていて、この戦略に乗ってやってもらったら、地域にとっても嬉しいし、本人にとっても悪い話ではない、という方に広めたい、というようには言おうと思っている。

では、この答申を語句のレベルで直して市長に持って行くので、皆様におかれましては、用語集に取り入れたらいいのではないかという用語についてご提案をいただくということと、「意見2」関係でこのアイデアは最後にプッシュしておいてくれと、伝えていただいたら、私の方で叶えたいと思う。これで議事②も終わりたいと思うが、委員の皆様、この機会に何か言いたいことがあれば。

各委員：
（特になし）

3. その他

・事務局からの連絡事項
前回議事録の確認・公開について

・次回日程調整
令和2年夏頃予定のため、時機を見て調整
・座長答申
3/27（金）午後の予定

4. 閉会

座長（挨拶）：
私達はこれで終わりではなく、引き続き任期があってPDCAで戦略の進行管理をしていくとかという

こと。私からの要望として、第1期の時は、KPIの数値で評価するということを重視して、事業を実施して数字が出てから会議で集まっていた。それから意見を言っても、あんまり反映のしようがない。正直、不満があって。

この会議をそう頻繁に開催されても皆さんも困るだろうし、事務局も大変だろうとは思うのだが、例えば第2期に入って、私達の想定している事業が想定されたように実施されつつあるのか、どうなっているのか、1度集まって、数値がまだないところで報告していただくのはどうか、と考えている。「こういう状況になっている」ということに対して皆さんからご意見をいただく機会があってもいいのかなというふうには思った。第1期のように「交付金をもらっているものの評価も兼ねているから、これに基づいて、こういうお金をもらって実施し終わって、こんな数字が出ていますけどどうしたらいいと思いますか」と聞かれても。委員の中からも時々、「やる前に言ってほしい」「やる前に聞きたかった」という声が挙がっていたので。何か改善できないか。日程が未定なのは構わないが、考えていただけたらと思う。

まだまだ続いていくとはいえ、「案をつくる」「戦略をつくる」というところの作業は一段落かなと思う。新しい市長の下、第2期になって、メンバーも入れ替わってこの会を持たせてもらった。私にとっては、非常に刺激的で色んなアイデアをいただける楽しい場であった。府立大学に公共政策学部が出来て12 年目になるが、最初の年から南丹市にずっと関わらせていただいている。色んな新しい取り組みとか、動きも出てきているように思う。単純に私が舐めるように地域を歩き回って、触れて知っただけということかも知れないが。最初の頃は、電車で来て駅まで車で送り迎えしてもらっていたが、最近はあちこち見たくてウロウロ回ったり。あるいは「ふるさと納税」というものがあったのでやってみて、南丹市からは日吉町の無農薬野菜を返礼いただいた。非常に美味しいものだった。ボリュームは宇治田原の方が多く、酢まで付いていたから負けているなと思ったが。ただ、珍しい野菜で、しかも無農薬で非常に美味しく、電話で到着確認と野菜の食べ方の案内を聞かせてもらった。そういう珍しい野菜もあったり、よいものが色々あるということは改めて思ったこと。前に言ったが、るり渓も刷新されつつある。今後この戦略の下、ますます明るい展望になればと期待しているところなので、今後ともよろしくお願いしたい。

では、これで事務局にお返しする。

事務局：

本日は大変長時間にわたり、ありがとうございました。皆様の専門的な分野や長い経験の中でご意見をいただいたので、事務局としても簡単にさっと直せる訳ではないと思うが、またご意見を追加でいただいたら、用語の追加・修正等もさせていただきたいと思う。

今後、一定まとめさせていただいて、またお返しをメール・郵便等でさせていただき、ご意見をいただいて、最終的には座長様から答申をいただき、この年度内に何とか議会報告したい。それを以て来年度から着実に取り組む。

また、来年度についても、先程ご意見をいただいたとおり、最終結果だけではなく、途中での動きというものもお知らせする方がよいと思ったところ。それについては、今後日程を調整させていただく。2年間という任期、引き続き宜しくお願い申し上げる。